

作物名	施用時期	希釈倍率、及び施用量	施用方法	施用目的、施用回数、施用手法等
イチゴ	親株育成時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又は灌注	健全ランナー育成に、適時
	子苗育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又は灌注	健苗育成に、適時
	定植時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	発根促進、植え傷み軽減に 定植直前～7日前に1回、ドブ浸けは定植時
	定植後	15～20aに1Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	生育不良の改善、活着不良の改善 元肥窒素量が多い場合（15Kg以上/10a）樹勢が強くなりすぎる事があります。
	本圃栽培時	10a当り1Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	花芽形成促進、果実充実肥大、成り疲れ防止に、2番果以降の各果房受精後及び樹勢低下前、月に1回位のペースで
メロン スイカ その他 ウリ類	育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	健苗育成、根量不足時
	定植時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	発根促進、植え傷み軽減に 定植直前～7日前に1回、ドブ浸けは定植時 根量増加、品質向上、樹勢回復維持、玉の肥大促進に各番果ピンポン玉肥大期
キュウリ	育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	健苗育成、根量不足時
	定植時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	発根促進、植え傷み軽減に 定植直前～7日前に1回、ドブ浸けは定植時
	本圃栽培時	10a当り1Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水	根量増加、成り疲れ防止、秀品率向上に 収穫期間を通じ20～30日間隔で
トマト	育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	健苗育成、根量不足時
	定植時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	発根促進、植え傷み軽減に 定植直前～7日前に1回、ドブ浸けは定植時

トマト	本圃栽培時	10 a 当り 1 Kgを1000倍以上に希釈	灌水又は灌注	樹勢回復、玉伸、着色促進、成り疲れ回避に 3 段目着果以降、各段着果後 月に 1 回位のペースで
ナス ピーマン	育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	健苗育成、根量不足時
	定植時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	発根促進、植え傷み軽減に 定植直前～7 日前に 1 回、ドブ浸けは定植時
	本圃栽培時	10 a 当り 1～1.5Kgを1000倍以上に希釈	灌水又は灌注	樹勢回復、品質向上に 収穫開始後15～30日間隔毎
アスパラガス	本圃栽培時	10 a 当り 1 Kgを1000倍以上に希釈	灌水又は灌注	株の養生充実に、貯蔵養分蓄積促進に 収穫開始後、貯蔵養分蓄積期前に
水稻	田植前	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用 苗箱1枚当たり希釈液1ℓ	灌水	活着促進、分けつ促進に
	本田栽培時	1kg／10a～30a 田植え後 3 週間頃	流し込み (ホウロウ) (水口)	根の活性促進に、有効茎の確保に一旦水を抜き 再度水と共に流し込み
茶	幼苗育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	発根後、苗の充実株作り、 定植時の活着促進に、ドブ浸けは定植時
	本樹園	10a当り 1 Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水	芽数、芽重増加に摘採の 1 ヶ月位前と貯蔵養分 蓄積前に、根圏に到達する様、畝間灌水
葉菜類 (苗移植タイプ) キャベツ	育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	健苗育成、発根促進、根鉢充実に 適時灌水

レタス ハクサイ ブロッコリー カリフラワー 等	定植時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	活着促進のため定植直前～7日前 灌水を兼ねて1回施用
葉菜類 (直播タイプ) ホウレンソウ コマツナ シュンギク ハクサイ等	発根後	10 a 当り 1 Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	生育促進、品質向上、収量増加に
エンドウ グリーンピース インゲン等	発根後	10 a 当り 1 Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	生育促進に、適時灌水又は灌注
	本圃栽培時	10 a 当り 1 Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	収量、稔実アップ、樹勢維持に
馬鈴薯 甘藷	植付け前	1000倍以上希釈液を使用	浸漬又はドブ浸	活着促進、生育促進

作物名	施用時期	希釈倍率、及び施用量	施用方法	施用目的、施用回数、施用手法等
タバコ	育苗時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	健苗育成、植え傷み軽減、根量不足時 適宜、灌水
	定植時	1000倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	活着促進、植え傷み軽減に 定植直前～7日前に1回、ドブ浸けは定植時
	本圃栽培時	10 a 当り 1 Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	生育促進、品質向上に

	本圃栽培時	10 a 当たり 1 Kg を 1000 倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	生育促進、根量増加に
ネギ	育苗時	1000 倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	健苗育成、根量増加に
	定植時	1000 倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	活着促進、植え傷み軽減に 定植の直前～7 日前に 1 回
	本圃栽培時	10 a 当たり 1 Kg を 1000 倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	定植後の土寄せ前に 1 回
ニラ	育苗時	1000 倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	根量増加、株の充実育成に
	定植時	1000 倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又はドブ浸	活着促進、植え傷み軽減に 定植の直前～7 日前に 1 回
	本圃栽培時	10 a 当たり 1 Kg を 1000 倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	株の充実、分けつ促進に、刈り取り後 都度 1 回、収穫終了後蓄積養分充実の ため 1 回
ビート	育苗時	1000 倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	株の充実、根量不足時に 育苗期間中に 1 回
	定植時	1000 倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水	活着促進、植え傷み軽減に
花き (球根類)	発根後	10 a 当たり 1 Kg を 1000 倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	活着促進・初期生育の揃い 着花数の増加、花や葉茎の鮮度保持に
	発根後	1000 倍以上に希釈し根に充分とどく様に施用	灌水又は灌注	養水分の吸収向上に

花き	元肥後	1000倍以上に希釈し根に元肥として、株に施用	灌水又は灌注	初期生育の確保他
	定植時	1000倍以上に希釈し、ドブ漬け	ドブ漬け	活着促進に
花木類	定植時	1000倍以上に希釈し、ドブ漬け	ドブ漬け	発根・活着促進にドブ漬け後、定植
	切り戻し時	10 a 当たり 1 Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	樹勢回復、新植更新回数低減に
	摘蕾時	10 a 当たり 1 Kgを1000倍以上に希釈し施用	灌水又は灌注	品質向上に
芝	樹勢低下時と 貯蔵養分 蓄積前	1000倍以上に希釈し、希釈液0.5～1ℓ/m ²	灌水又は灌注	芽数増加と樹勢回復に、更新作業後やコリング時に希釈液が根に接触する様に施用
	芝張り時	1000倍以上に希釈し、希釈液0.5～1ℓ/1 m ²	ドブ浸又は灌水	活着促進に1000倍以上の希釈液にドブ浸け、又は芝張り後灌水
	発根後	1000倍以上に希釈し、希釈液0.5～1ℓ/1 m ²	灌水又は灌注	播種後、密度の高いターフの形成促進に
落葉果樹 常緑果樹	樹液流動後 花止り後	10a当たり1Kgを1000倍以上に希釈し、 樹冠下に施用	灌水又は灌注	樹勢回復、品質向上に、できるだけ 水量を増やし根圏に到達するように (降雨後で土壌が濡れているときが最適)

※既定の希釈倍率より濃く使用しないでください。(推奨の希釈倍率は1000倍以上です)

※育王は葉面散布剤ではありません。希釈液が根に触れるようにたっぷり灌水等をして下さい。

※希釈液はその日の内に使用し、長時間放置しないで下さい。

※葉菜、果菜、水稻、花卉、茶樹、他のあらゆる作物に対し、灌水量を増やして

希釈液が根に直接接触する様、施用して下さい。

※農薬との混用は原則として避けてください。

液肥との混用は一方を希釈後混用し、ただちに使い切して下さい。

※育王を使用すると毛細根増え肥料吸収が旺盛になる傾向にありますので過剰施肥に注意して下さい。